

国立大学法人岩手大学 岩手大学

(審査・評価委員の所見)

- ・新エネルギー、航空機産業という貴学の特色ある研究を基にした提案で評価できる。ただし知財のあり方については検討を希望したい。また経産省のGX基金やグリーン政策との関係を模索した方がよいと思う。
- ・東北において半導体産業、半導体関連産業の集積を図る地域で本学の強みであるi-SBを中心に産業競争力を強化する取り組みを県と緊密に連携して進めている点は評価できると共に、人材育成についても学部を新設し人材育成の観点でも評価できる。
- ・貴学を中心に地場産業や地場に展開する大企業との連携が進んでいるが、東北地区の大学間ネットワークを有効に活用しながら、より幅広く広域を巻き込み進めていただきたい。
- ・卓越性のあるi-SB法による地域企業の技術高度化に期待したい。
- ・J-PEAKSの採択により、大手企業の参画が進展した際には、岩手県内の企業との産産連携が促進されることを期待できる。
- ・半導体・自動車・医療に的を絞って、自治体と連携して産業振興を図っており、明確である。本事業の狙いも明確である。ただ、次世代農業については今後の進め方をもう少し明確にしていきたい。
- ・東北地方産業の活性化、就中二次、三次産業に於ける存在意義確立の為には中心的役割を担ってもらう必要あり。半導体や自動車産業など裾野の広い産業、且つ他地域との競争関係が想定される産業に係わる地域企業の育成には、産・官（地方政府）・学の緊密な連携が必要。明確な戦略軸をもって推進して欲しい。

国立大学法人秋田大学

秋田大学

(審査・評価委員の所見)

- ・内閣府の地域創生で行っている IHI との連携など秋田大学の研究イノベーションは進んでいる。問題は、特にグリーン関連に軸足を置こうとしている現状では、経産省との政策軸をより強固に考えた方がいいということか。
- ・秋田・東北において、新世代モーター特性評価ラボの強みを生かしながら企業連携を進めながらスタートアップも育てる考え方は野心的であり、県内企業との連携で評価できる体制も整えている点は評価できる。また、量産計画などについても野心的であり評価できる。
- ・グリーンイノベーションラボについて今後さらに重要な機能となると考えられる。北海道と本州結ぶ海底送電線の秋田ルートの検討も進んでおり、我が国のエネルギー安全保障の要衝となることも想定されるため、東北のみならず全国規模の巻き込みは本事業で進めていただきたい。
- ・ピラミッド構造である航空機産業の振興（特に、販路開拓）のためには、Tear1、Tear2 企業との連携が不可欠なので、3重工（三菱重工、川崎重工、スバル）との連携も視野に入れた活動を望む。
- ・地域振興が重要な地区であり、期待したい。ただし、航空機電動化（モーター開発）やグリーンイノベーションを強化するとしているが、グリーンイノベはこの事業でどの程度強化できるかが不明瞭。
- ・航空機電動化については、IHI が中心で進めるようであるが、地域振興にどの程度役立つのか明確にしていきたい（試作品製作の会社だけでは小さい）。また本事業により、スタートアップ振興がどのように進むのかについてももう少し明確にしていきたい。
- ・特色ある研究分野（航空機産業、新エネルギー分野など）での更なる飛躍が期待される。地域産業への貢献については、今一步明確な目標を定めて頂き、それが結果として外部資金の一層の獲得に繋がる様努力して貰いたい。SDG s の浸透への貢献は、社会的意義は大いにあるが、それを「成長」に結びつける為の工夫が必要。

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

沖縄科学技術大学院大学

(審査・評価委員の所見)

- ・沖縄という舞台での気候変動研究のテストベッドが、本当の意味でのソリューションを目指すものであれば、より広範囲な大学が他の地域も巻き込んだ動きを作る必要があるのではないかと。
- ・PPUP モデルの中に、スタートアップや社会実装につながるファイナンスモデルを組み合わせられ、国際的な卓越した研究者を中核に EMS を中心に、島嶼部のエネルギー管理のモデルを構築し海外展開する国際戦略を練りこまれており評価できる。また地元企業と大企業との連携による沖縄の産業構造を変更するまで踏み込んでおり評価できる。
- ・テストベッドに関して、まずは PoC の実施を進めていくことが考えられるが、より広域に社会的インパクトを広げるには PARKS の枠組みを活用しリーダーシップを発揮することを期待する。
- ・地域自治体との連携や地域中小企業等が参画したプロジェクトの推進により、地域活性化に貢献することを期待したい。
- ・グリーンエネルギー管理、MaaS による自動運転、およびドローンに関する開発を行うためのテストベッドの提案で、大企業が少ない沖縄でスタートアップの活用も含めて現実的な提案といえる。ただし、沖縄地元振興に本事業がどの程度貢献するかの明確化が必要。
- ・研究レベルでは本邦屈指。又、その国際性は突出している。そうした意味で J-PEAKS に採択されているが、沖縄地方、産業に対する貢献という意味では依然不十分であり、今後の課題。地域の課題が何であるのか、をしっかりと見極めた上で、観光が大きな位置を占める沖縄経済に対し、大学の強い研究力をどう地域に還元していくのかの検討を一層推進し、より具体的なアクションとして一步一步積み上げて欲しい。

国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学

(審査・評価委員の所見)

- ・農業は食糧安全保障の点からも重要な産業であり、特に北海道という単一の自治体を背景にする地域産業として極めて重要である。できれば北大とのアライアンス構想にも積極的に参加してほしい。
- ・ARA の構想についての取り組みは評価できる。特に1次産業に従事する経営者に対するクローポを通じた北海道農業の高度化を図りながら、地域で食料安全保障の中核を担うことが期待される。
- ・外部資金の獲得に関しては、人材育成についてももう少し野心的な価格設定をしてもよいのではないか。
- ・多様な産業との連携が行われているが、地域のリーディング企業との連携を進め、地域産業の活性化に寄与することが望まれる。
- ・クローポのARAという提案はユニークな提案である。また、農畜産へのスマート化は重要な課題とは思いますが、ARAだけで解決できるものではないので、もう少しスマート化に向けての具体的な計画立案を望みたい。
- ・食の安全保障は国家戦略の一丁目一番地。スマート農業、データ農業の推進のリーダーとなって欲しい。それが地域農業の活性化と成長産業化に直結するはず。又、そうしたスマート農業の日本版は今後東南アジアなどの国々の農業の未来像の模範にもなり得るものであり、今後国際展開も視野に入れるべき。それが農業の「輸出産業化」に直結していると考えます。その他、外国人留学生の活用や、大学院改革、北大を含めた北海道内アカデミアや農研機構との連携などについて意を用いて欲しい。

国立大学法人金沢大学

金沢大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学が北陸地域の大学や自治体のネットワークのハブに成長していることに強い期待を持つ。観光科学というコンセプトはよりニーズオリエンテッドなものになることを期待する。
- ・先端観光科学という人文社会医工融合領域で柱を立て、地域の観光産業を高度化するための取り組みを進めるのみならず、ビジョンインキュベイトによる投資を進めながら社会実装する点は評価できる。
- ・現在の先端観光科学の領域において、研究開発テーマもまだ必ずしも世界に伍する卓越、特色のある領域にはなっていない為、今後の展開に期待する。
- ・北陸地域全体の観光振興は、地域活性化や能登半島地震の復興のため不可欠なことではあるものの、人材不足も大きな課題とも言われているため、DX を活用した合理化、省人化にも積極的に取り組んでほしい。
- ・データを基にした観光科学という取り組みはユニーク。J-PEAKS での取り組みとの違いも明白である。ただし、観光を中心とした地元振興のためには、課題を整理し、それに向けての具体的な対応案を考えないと進まないと感じる。その点の見直しを期待する。
- ・「観光の科学化」の意味は相応に理解出来た。障がい者や外国人など多様な訪問者に対する細やかな対応を医学や工学（モビリティ）を含め実装化へ向け幅広く検討することは、ローカル・ツーリズムを超えて地方が抱える課題（例えば過疎化やスーパーシティ構想）への“建設的つながり”を産み出す可能性を感じる。石川県を超え、北陸地方を超え、日本全体への重要なインプリケーションを明示化して欲しい。

国立大学法人鳥取大学

鳥取大学

(審査・評価委員の所見)

- 乾燥科学、バイオ産業との関係から地域への貢献を考えるこの申請は評価できる。一方で、地域の産業の分析をより広範囲な自治体や経産省との協力から進めた方がいいのではないか。
- 「限界環境生存学」推進戦略について、地域特性と大学の卓越した研究領域をうまく融合した戦略であり評価できる。
- 乾燥地科学に関しての取り組みについては、海外との連携を進めていく体制についても外部の力を借りつつ、人材を含めた内製化にも注力していただきたい。
- 農林業の振興は県の主要課題だと認識しているが、農林業だけでは出荷額が小さいため、食料品製造業、飲料製造業や医薬品製造業も含めたプロジェクトを創設し、その振興に努めてほしい。
- この地域を振興するには大学の果たす役割は大きいと期待する。ただし、アグリバイオと乾燥地科学の強化を図ることにより、どの程度の産業振興につながるかが現計画では不明瞭。国際連携の強化やスタートアップの増加も目標に、実施施策をもう少し具体化してほしい。
- 申請予定の J-PEAKS との棲み分けは明確。資金使途は主として設備と人材に焦点が当たっているが、「乾燥地科学」の社会実装化を明確なターゲットとしつつ、関連地場産業の育成に注力してほしい。又、希少な研究分野と社会実装へ向けた取り組みの国際展開に力を注いでほしい。

国立大学法人岡山大学

岡山大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学が自治体や地域の大学を巻き込んだ仕組みづくりをどのように行っていくのかに期待がある。
- ・国立公立、県が連携して、高度の人材育成を行うと共に、地域課題解決を進めている点は評価できる。また、研究領域も双方の大学が連携することにより補完関係もあり今後期待できる。
- ・産業構造を変革するための大学の役割については、県の協力は不可欠。今後県の産業政策と緊密に連携しながら県立大学のステータスも高める取り組みを進めていただきたい。
- ・県の重点課題である DX の推進をサポートすることは有意義なことであると理解できる一方で、地域活性化における具体的な産業分野が不明確に感じる。
- ・地域振興を狙いに本事業では県立大や私大らと連携を強化し、デジタル分野の課題を解決するとしている。重要なテーマだと思うが、地域振興に向けてもう少し具体化が欲しい。
- ・県大や自治体自身と一緒に参加し、若い人材定着を訴えた点は良かったと思うが、貴学以外の連携先の役割が重要と思うので、それぞれの組織の役割をさらに明確にしていきたい。
- ・地域課題を何と定め、大学の研究力と人材力を活用してどうアプローチしていくか、についての具体的道筋が十分明確とは言えない。J-PEAKS の採択も踏まえて、大学の研究力や人材をどう活用して地域産業の発展に貢献していくのか、という視点のより具体化、明確化が必要。

国立大学法人新潟大学

新潟大学

(審査・評価委員の所見)

- 貴学の UA 制度は、着眼点として大変興味深く、注目している。ただ、その方針がどの程度旧六医科大学の一角である新潟大学の研究環境の改善にプラスとなっているのかをきちんと説明してほしい。また地域の産業や自治体との関係を本当に UA が支えるのであれば、IR 機能をより充実させる必要がある。
- PhD リクルート室の取り組みについて、理工系ではなく人文社会系の博士課程の研究者もそれぞれ融合しながら進めている点は評価できる。更にその人材を各地域で活躍する場を地域と連携し大学が提供していくことも重要。
- 地域と連携しながら丁寧に進めていることは非常に評価できるものの、一方で UA のこれからの当て込みはこれから更に重要となる。
- UA を活用した地域自治体との強固な連携が創出され、政策立案のベースとなる総合計画やビジョン策定に積極的に参画し、社会実装までの一貫通貫の地域活性化を支援する体制の整備が望まれる。
- 地域ごとに創成 UA を増強、共創 IP 事業を強化することは重要な提案だと理解する。しかし、本事業により地域の産業がどの程度振興するかが不明で、もう少し地域振興策について具体的なイメージが欲しい。
- “ユニバーシティ・アドミニストレーター (UA)” は今後他大学へ大きな影響を与うるものであり、その成否は見極めが難しいが、大学改革の一環として後押しすべき取り組み。一方で地域産業強化への取り組み、地域企業との協力関係の強化については、大学の研究力の強さを活かしきれていない。地公体を交えた今一歩踏み込んだ取り組みが必要。